

朝日新聞 2010(平成22)年12月23日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

23日 木曜日 13版 ▲ 第2佐賀 佐賀 26

# ぶらり ミュージアム

## 県立博物館

波しぶきをあげる海、その上を勇壮に飛ぶ2匹の蝶。幕末の鍋島藩窯（伊万里大川内山）で使われていた「灘越蝶文」という図案をアレンジしたものである。「三重津海軍所跡」から出土したこの小皿は、側面に染付で「海」の字を配しており、海軍所の備品として注文生産されたい。灘越蝶のデザインは、近代化を進め諸外国に伍していることとする佐賀藩の意気込みを示しているようだ。

三重津海軍所は、幕末に

## 諸外国に伍す意気込みを示す

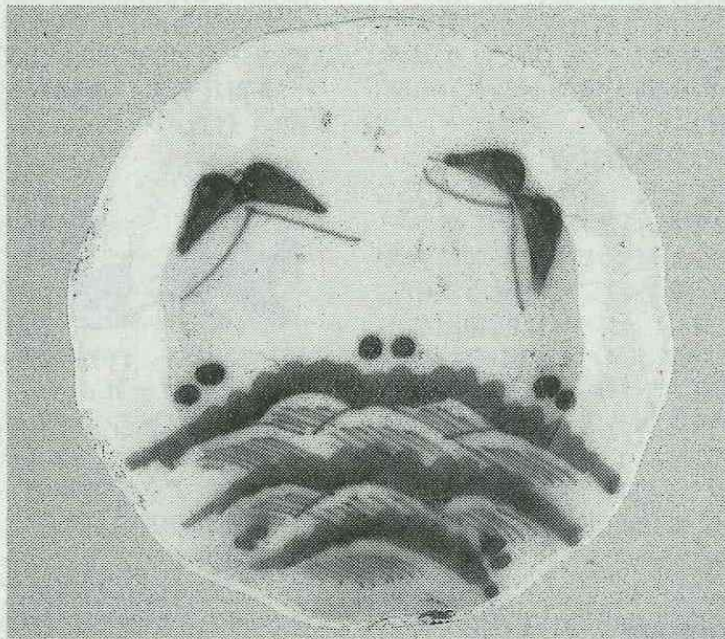
### 灘越蝶文皿

筑後川支流の草津江川岸におかれた、佐賀藩洋式海軍の拠点である。ここでは、海軍技術の伝習に加えて、藩が輸入した電流丸など洋式船のメンテナンス、幕府が初めてつくった蒸気船千代田形や電流丸のボイラー製作、蒸気船後風丸の製造などが行われた。

灘越蝶文皿は、「幕末佐賀の近代化産業遺産」展（来年2月13日まで）で展示している。

（県立博物館 学芸員 本多美穂）

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時（1月1～3日は開館）。休館日は月曜（ただし1月3日、10日は開館）と12月29～31日、1月11日。



口径11㍍、高さ2・8㍍、高台径6・7㍍／磁器。染付／産地・肥前／佐賀市教育委員会所蔵